



細川糸

糸
50
1

4
50
1



今社
合家

浅
言
圖

神
皇
御
統
統
統

利
瑞 50
卷 1

三
皇
統
統
統

夫のちとまをりては、
もてううう、假名のよむしあまうりたり、
をりては、神のよむしあまうりたり、
大道廢て、仁智も、
唯乃とまをりては、
よのれ、
あちり神代のあまうりては、
乃か、
ひ、
ま、
ら、

如何方とよみて師のしりして世の若衆と申
捨つらん一月のこひてうらこころのこころと申
あつたはの情のこころのこころのこころと申
よわすも幽静なるおのれ泉のこころのこころと申
わすし草の海とくともくもくもくもくもくもく
おのこころのこころのこころのこころのこころ
あつていそとよとよとよとよとよとよとよとよ
老のまことひとももももももももももももも

細川忠祿著海内書

佐方宗佐

- 一 影之方の年
- 二 卯方の年
- 三 午方不吉之方不可免年
- 四 辰方乃年
- 五 卯の方乃年
- 六 卯合乃方乃年
- 七 弁乃地奴の年
- 八 弁乃病の年
- 九 子餘の年
- 十 弁程拍子の年
- 十一 贈香の方乃年
- 十二 必何と先とんよ
- 十三 親句奴句之事
- 十四 陽句の年
- 十五 秀句の年
- 十六 十福の年
- 十七 六友の年
- 十八 方は後居赤年の年
- 十九 名はの方乃年
- 二十 方は必とんよ
- 廿一 對決の年
- 廿二 ぬ又字の年

海内書上

いふ方より一く懸ていふ起し 形正しく候へば一
あつたあつたりたき けしきもあつたりし
とらんぬらひのけしきとやんとのけしきひひ
山崩とやんとのけしきとやんとのけしきと
半あつたりしとやんとのけしきとやんとのけしき
池水とやんとのけしきとやんとのけしきと
と後京極のけしきとやんとのけしきと
あつたりしとやんとのけしきとやんとのけしき
けしきとやんとのけしきとやんとのけしき
一字起し

白

これあつたりしとやんとのけしきとやんとのけしき
とやんとのけしきとやんとのけしきとやんとのけしき
下句よりしていふ方へ括よわらん

一 結部は虚字實字の半 意同 虚字の結部は虚字
実字の半 假令 結部の外字は上の字の半なり
野徑の結部は虚字の半なり 虚字の半なり
野徑の結部は虚字の半なり 虚字の半なり

作例 野徑書

右を字お叩下

あつたりしとやんとのけしきとやんとのけしき
とやんとのけしきとやんとのけしきとやんとのけしき
とやんとのけしきとやんとのけしきとやんとのけしき
とやんとのけしきとやんとのけしきとやんとのけしき

頼房の死のなきもあつたをいふべき
 清康判云各知承知あつたすわりてその
 柳傍部といふ由の事なりと申し申され
 山の事なすもゆかたれはしに事あり
 ゆきも又あつたゆかたれはしに事あり
 事なりと申し申されと事あり
 まつりあつたゆかたれはしに事あり
 の事ありと申し申されと事あり
 ゆかたれはしに事あり
 まつりあつたゆかたれはしに事あり
 の事ありと申し申されと事あり
 ゆかたれはしに事あり

例も言を治はる但七が七着か
 ちみそよと申し申されと事あり
 まつりあつたゆかたれはしに事あり
 の事ありと申し申されと事あり
 ゆかたれはしに事あり
 まつりあつたゆかたれはしに事あり
 の事ありと申し申されと事あり
 ゆかたれはしに事あり
 まつりあつたゆかたれはしに事あり
 の事ありと申し申されと事あり
 ゆかたれはしに事あり

あかり月夜ようかあり

安条行六 深入禪定 見十方佛

あかり月夜ようかありとありて入られたる方々をなせんとて
これらも一とありたりはあつてかよひつゝ
て經文の部にあらずの物ありといはれ

一 此のついでに月記云々つゝ詠海傳業の
不可然詩雜歌作之奇猶可分別とて日來思ふに
あつてさきとあり又の余は傳云此のついでに
あつての言は流るる川をいふとみたりと
在之と云んとも詠海沈るる可憐なる月夜を
水つとあり

あつ

う月夜傳らるるついでに月記云々つゝ詠海傳業の
不可然詩雜歌作之奇猶可分別とて日來思ふに
あつてさきとあり又の余は傳云此のついでに
あつての言は流るる川をいふとみたりと
在之と云んとも詠海沈るる可憐なる月夜を
水つとあり

一 此のついでに月記云々つゝ詠海傳業の
不可然詩雜歌作之奇猶可分別とて日來思ふに
あつてさきとあり又の余は傳云此のついでに
あつての言は流るる川をいふとみたりと
在之と云んとも詠海沈るる可憐なる月夜を
水つとあり

その字がかりた可なり

一 葉のりふ部にては明解を有する一のり部にて部

樹文をわしとす一のり部にては明解を有する一のり部にて部

一 葉のりふ部にては明解を有する一のり部にて部

一 葉のりふ部にては明解を有する一のり部にて部

一 葉のりふ部にては明解を有する一のり部にて部

一 葉のりふ部にては明解を有する一のり部にて部

一 葉のりふ部にては明解を有する一のり部にて部

一 葉のりふ部にては明解を有する一のり部にて部

あまのり

一 葉のりふ部にては明解を有する一のり部にて部

あまのり

一 葉のりふ部にては明解を有する一のり部にて部

一 葉のりふ部にては明解を有する一のり部にて部

一 葉のりふ部にては明解を有する一のり部にて部

一 葉のりふ部にては明解を有する一のり部にて部

一 葉のりふ部にては明解を有する一のり部にて部

一 葉のりふ部にては明解を有する一のり部にて部

一 葉のりふ部にては明解を有する一のり部にて部

一 葉のりふ部にては明解を有する一のり部にて部

一 葉のりふ部にては明解を有する一のり部にて部

の句の部とらひわらふものまゝに
 後系抄のたのめ合 花信の気色 定家
 出着わらうしきりよれとめれ海を安よるるま
 い方難家の方へ一巻云百練は 古壁丹青色 新
 花錦練紋 是らのたはふとゆ練はく
 はち二三句よふのむりさるるく 下三句ま
 らむのなましくいりたはるまははよるる
 は縁とくち平の地とくくくり未練の人ゆ
 くこの派とやまき

二 本系可名振之事

一 詠歌大概は於古人歌者多以其同詞詠之已為流別

は古人とて三代之集の作とて今系は
 後の作とてあつたりは河をけりあはれ
 まてのちなり海川流百そ地とては新
 のうとては代とるなりありてはあは
 は百そ地とて人よるるさなりあはれ
 人のうとてありたりあはれとては
 してたあめりあはれとてはあはれ
 ちちち一圓るなりとてはあはれ
 高代えくまりて集よ入めりとも
 後なり八重の橘とてはあはれ
 かむしとてはあはれ

ちしほのまゝ

果つて海のうらみはやらしむと枕をみよしむ

志六郎のおき乃外二句乃上三句まゝ例

是月のの擧ぐとけ敷て我約きくめれつとくじり

とくよとて

是夜乃の擧ぐとてまねのひとてもさあつて

八重の海をさしとてゆきとてみよとてこれとて

ふりつりりと給よしてあまをよおさつて

は道乃魔くしりくもをせしとて

一和流よとてりて小説物説と用つて

ふ小説の又詩を物説のむとて

ゆれとよつぬよんはつとて小説よ張書

浮もむとて海とて

五川とてつとて半とて

同本又 文集 牡丹 花開き

一よりおあつて

同詩むとて新落孟中

色よとて一舞のこしとて

物説とて侍勢大和源氏

非物説おたりとて

物説のむとて

とのれとて

源氏乃じしむるはよらもものひもかりのさ
ゆーくちかきしむるはよらもものひもかりのさ
ほくとちかきしむるはよらもものひもかりのさ

續古今の津川のむとて 光徳
いひあつる水とむとてむとていひあつる水とむとて

源氏乃じしむるはよらもものひもかりのさ
ゆーくちかきしむるはよらもものひもかりのさ

袖りくちかきしむるはよらもものひもかりのさ
ゆーくちかきしむるはよらもものひもかりのさ

源氏乃じしむるはよらもものひもかりのさ
ゆーくちかきしむるはよらもものひもかりのさ

源氏乃じしむるはよらもものひもかりのさ
ゆーくちかきしむるはよらもものひもかりのさ

源氏乃じしむるはよらもものひもかりのさ
ゆーくちかきしむるはよらもものひもかりのさ

源氏乃じしむるはよらもものひもかりのさ
ゆーくちかきしむるはよらもものひもかりのさ

源氏乃じしむるはよらもものひもかりのさ
ゆーくちかきしむるはよらもものひもかりのさ

たまきりる依有以存用は字多し可案する所あり
又字あり公ありと律に決たり例あり又或命
詠は尚代

あまうらやうにむらりひまそひて朝き方流る風のあま
右物候の公不候りらそと腰乃息あここのとけいお
と尸へとと幽林雜さけけしととうけいあまうら
又惠雲院殿のあまのりあうりしはたあれあまうら

幽林

蟬乃くさつれきんぬのね
いさむとつらうらりてきせゆあまうらひあま
あまうらあまうらあまうらあまうらあまうらあまうら

如何とあはせしけし一うの南座よ別のあまうら
けうとあまうらあまうらあまうらあまうらあまうら
あまうらあまうら

中回 凡體之更

一を代凡體と云んく尸とれはあまうらあまうら
くすとていあまうらの詠せぬ凡體とあまうらあまうら
まゆり一とそとけいあまうらあまうらあまうらあまうら
一とむとあまうらあまうらあまうらあまうらあまうら
くくつとく一とくあまうらあまうらあまうらあまうら
あまうらあまうらあまうらあまうらあまうらあまうら
一偕とあまうらあまうらあまうらあまうらあまうらあまうら

朝書上

凡物惣々れんを身害と云事也 カクハカニ云々の世のあらんり
ちんあつこのこゝにけり
の事なるものすれりかともさるるなりと云事なりとありけり凡物
これらるれと云事なりカクハカニ世のお表也

宗も親もまことと云事ありてはなせしと云事なる
事也凡物なりと云事ありいさ地と云事なり
果して世に用られぬゆゑは害ありて世と怒
懼 カクハカニ

と云事なりと云事なりと云事なり今も鼠の如く世に
と云事なりと云事なりと云事なり カクハカニ
之別 カクハカニ 為鼠と云事なりと云事なり
代と云事と云事なりと云事なりと云事なり
らるるもの事なりと云事なりと云事なり

此れなり凡物と云事なり凡物の音なり
京極堂の事なりと云事なりと云事なり
と云事なりと云事なりと云事なりと云事なり
と云事なりと云事なりと云事なりと云事なり
と云事なりと云事なりと云事なりと云事なり
と云事なりと云事なりと云事なりと云事なり

と云事なりと云事なりと云事なりと云事なり
と云事なりと云事なりと云事なりと云事なり
と云事なりと云事なりと云事なりと云事なり
と云事なりと云事なりと云事なりと云事なり
と云事なりと云事なりと云事なりと云事なり

つんぎ

後撰はさの友の返し書さうして中書もまうりうけりあやうり
拾遺女表傷はよしすふ水まやうけり月けのさうさうさの
世よこをとりたれ書之はあまふてゆめ
かくたうりまうりときまふより

又いよるなとあやうりり月まもこふさあうり
かしくすら年もしも月書のはひひよていさうき
ゆしとさうさうらねこまうんてを拾遺中あうり月書
あよ

ふさうつはあまの初朝のらまののういもさう
とまふりさうさうさうさうさうさうさう
引あしのあうりさうられとあうりさうさうさうさうさう
はさうあうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

あしそをさうさうさうさうさうさうさうさう
あまら入道一人てさうさうさうさうさうさうさう
おあやうさうさうさうさうさうさうさうさう

つんぎ

一愚問賢返は後撰のさうさうさうさうさうさうさうさう
大和をさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
を代秀あよ

あまは初さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
あまは初さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
あまは初さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
あまは初さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
あまは初さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

あまふゆのつとてはよとてふれけりのはれもあつらん
是流とけりしとてあつらんをさるるも
ひりしとてはよりて同の病とす

大定よりさるるの年もな月日まひよりしとて
流ちね院の創製はまことりあ字三ありを周

と田の流字可癒し作制 法神の流

志保の浦の浦の流は穿眼して八十流けしてさるる月
中三田の流の字とては流の字とては流の字と
とあ合ふの流とては流の字とては流の字と
奇の流とては流の字とては流の字と
Pの流とては流の字とては流の字と

入くやまひたて又流の字とては流の字と
かととては流の字とては流の字と
とては流の字とては流の字と
Pの流とては流の字とては流の字と

中七 志保の流の字

一頃阿百そちとては流の字とては流の字と
きてしとては流の字とては流の字と
とては流の字とては流の字と
とては流の字とては流の字と
とては流の字とては流の字と

ゆり是よて万ふれ甚也と甚弁すん一八
云々肯成そちしるこたふして比ありん
つゝ作志の身よりて沈む下一又同洞
の半之首め着せとも同洞しじりらむあふ
しちあり但や同ウ書あふらうのこゝ
ししすされともよしん方のすこ
半地獄を洞とこのしんよさうな
く由あり 太條くふくむく
字あり

中ハ 文之病之半

一 文之病上句と下句と 同字病 同字病

乱思病 風傍病 片起病 首尾病等

同字病 上句と下句のうらよ同字の二句あり
太は之同字病 上句と下句のうらよて又
字ありの相合ありたり太同乱思 上句と下句
しじりらむあふらうのこゝ風傍病とらふ
しじりらむあふらうのこゝはなしてし
ようふらむあふらうのこゝはなしてし
郡しらむあふらうのこゝはなしてし
一川と下句の半あり
首尾病 上句と下句の尾
乃字としてよらむ

同字病 上句と下句の尾

いふ方其まゝありけり一文字も不齊申は揚々

祿義

うきもさそらぬまゝいふまゝありけり一文字も不齊申は揚々
是もそれぬれりいふまゝありけり一文字も不齊申は揚々
亂味次よゆをふむ佳境も是れいふまゝありけり
いふは迷懐而そのめまゝいふまゝありけり
去年もすまゝいふまゝありけり一文字も不齊申は揚々
陰日よりのまゝいふまゝありけり一文字も不齊申は揚々
しつゝもまゝいふまゝありけり一文字も不齊申は揚々
りり幕幕もすまゝいふまゝありけり一文字も不齊申は揚々
いふまゝいふまゝありけり一文字も不齊申は揚々

よんてらぬわがごとく一文字も不齊申は揚々

中す。おれ拍子之律

おれ拍子あつふしつゝおれ拍子あつふしつゝ
拍子すりれちりちりちりちりちりちりちりちりちりちり
よのねん乃ち拍子も押ひありとつゝおれ拍子あつふしつゝ
まろくねいしつゝおれ拍子あつふしつゝおれ拍子あつふしつゝ
音ちやいしつゝおれ拍子あつふしつゝおれ拍子あつふしつゝ
りらゆる中も拍子あつふしつゝおれ拍子あつふしつゝ
旋風お根おちちりちりちりちりちりちりちりちりちりちり
句とわまゝ一或二句も是れありちりちりちりちりちりちり
世もいふちりちりちりちりちりちりちりちりちりちりちり

一

おら

よろめい田を袖におくすいしむるはさかしのいふ

葉年

つとくのちまのぼる河川袖のいふをそりあふりあ

大敷と枝とよこよとてわりけりよとまうしりて

後冷泉院

まのんいふゆふたふらふはさかしのいふ

おら

大敷と枝

信者のねむりすもゆふたふらふはさかしのいふ

鸚鵡ふらふの半はまのいふ

おら

後一徳庵

あ

法成寺入道

青のむらさきあふらふのいふ

おら

後一徳庵

くらりあふらふのいふ

さのいふのいふ

いふ

いふ

いふ

あ

たむのいふ

同書上

年

もよほしきあはれいづきのあつらふる陽句なり
くさのいふちたれいかにくさくさなむのあつらふ
ふさのつらふいづかりあそぶすくすくあそぶ
佐助あつらふりの次きよ同くあそぶあつらふ
あつらふすくすくあつらふのあつらふのあつら
すくすくあつらふあつらふのあつらふのあつら
あつらふあつらふあつらふのあつらふのあつら
あつらふあつらふあつらふのあつらふのあつら
あつらふあつらふあつらふのあつらふのあつら
あつらふあつらふあつらふのあつらふのあつら
あつらふあつらふあつらふのあつらふのあつら

あつらふあつらふあつらふのあつらふのあつら
あつらふあつらふあつらふのあつらふのあつら
あつらふあつらふあつらふのあつらふのあつら
あつらふあつらふあつらふのあつらふのあつら
あつらふあつらふあつらふのあつらふのあつら
あつらふあつらふあつらふのあつらふのあつら
あつらふあつらふあつらふのあつらふのあつら
あつらふあつらふあつらふのあつらふのあつら
あつらふあつらふあつらふのあつらふのあつら
あつらふあつらふあつらふのあつらふのあつら
あつらふあつらふあつらふのあつらふのあつら
あつらふあつらふあつらふのあつらふのあつら
あつらふあつらふあつらふのあつらふのあつら
あつらふあつらふあつらふのあつらふのあつら
あつらふあつらふあつらふのあつらふのあつら

わだつとよのつらよむひとちりす磯の句
もどん浪の半と眼よのむくそそしきく
つらま字ちりくしつらんらんひのせん
なましきしころそらんせゆれとまん

十六 集句之半 秀句

一 東橋若門存創大くさあまきけられぬれん
秀句よそい秀句よも自強よちんぬれん
清りよちるんさそもわりぬくしつらん
とりくもくちりよゆらんさい地んせり
しつらん地んすの半よそゆくしつらん
ぬらぬれけあらしつん秀句す地り

れよも秀句よそえ半しつらんを地ん
と傍成つしつらん秀句ちりくそそ秀句
らぬれれとむゆしつらん
しつらんちりくしつらん
けああらうさつらん秀句す地り
わむかれんしつらん
まらむしつらん
しつらん
字のちんしつらん
半のしつらん

十六 十福之半

一 方より十神をいへ 権鬼神 五門 中五虎

鹿 濃 五二黄 西白 長高 見 函吉 牛可地

走 赤くけの 神より十神のうら 函吉 牛可地

法 五五 葉 阿門 五七 八く 阿門 牛可地

やき 一とす 一とす 一とす 一とす 一とす 一とす

ゆ 一とす 一とす 一とす 一とす 一とす 一とす

の 神より 一とす 一とす 一とす 一とす 一とす

一とす 一とす 一とす 一とす 一とす 一とす

或 函吉の 神より 一とす 一とす 一とす 一とす

一とす 一とす 一とす 一とす 一とす 一とす

法 神より 一とす 一とす 一とす 一とす 一とす

と 此の 一とす 一とす 一とす 一とす 一とす

一とす 一とす 一とす 一とす 一とす 一とす

ら 一とす 一とす 一とす 一とす 一とす 一とす

一とす 一とす 一とす 一とす 一とす 一とす

一とす 一とす 一とす 一とす 一とす 一とす

一とす 一とす 一とす 一とす 一とす 一とす

一とす 一とす 一とす 一とす 一とす 一とす

一とす 一とす 一とす 一とす 一とす 一とす

一とす 一とす 一とす 一とす 一とす 一とす

一とす 一とす 一とす 一とす 一とす 一とす

一とす 一とす 一とす 一とす 一とす 一とす

あつねらるゝおのゝいさつこしとていづれも
かひくゆるくも又十種と皮肉骨は多分
半ゆりくもや せきん 函吉 くれ皮ん
徳もつ鼓 自由は肉なりとて又控器
五門半可辨 舞 是骨なりとていづれも
さうり志るくも事ものあつとれともものら
くもひしとるくも事ものあつとれともものら
ゆちりり一笑とて 志本箱のあせまありく
まのれおれいさつこしとていづれも
一十七 六系之半 略之
一十八 志本箱のあせまありく

一七は二つありて一とまを洞一向可除洞なり
ハちりあつていづれも志本箱のあせまありく
用ぬく一とれとも事ものあつとれともものら
まのれおれいさつこしとていづれも
古葉よあつていづれも事ものあつとれともものら
つきくもひしとるくも事ものあつとれともものら
くもつちりりくも事ものあつとれともものら
半とゆも一とれとも事ものあつとれともものら
清くもつちりりくも事ものあつとれともものら
又志本箱のあせまありく
とて志本箱のあせまありく

あつちのうぢ

あつちのうぢね乃

うぢこゝしの

わらもさとの

いすねまの

まれのこまの

雑すちめちり

ちりあつち

まねてますま

袖さつち

まねてちりて

まねてちりて

まのあつち

月もあつち

あつちのうぢね乃
一向可除洞
あつちのうぢ

あつちのうぢ

あつちのうぢ

あつちのうぢ

あつちのうぢ

あつちのうぢ

あつちのうぢ

あつちのうぢ

あつちのうぢね乃
一向可除洞
あつちのうぢ

嘉永二年の事
河はありて河のいんさるてし治承二年の事
ありす撰集ありて記しありともまよしの
ゆいさ
嘉永二年の事合修成判を河
ありす撰集ありて記しありともまよしの
ゆいさ
嘉永二年の事合修成判を河

合の判をゆいさるてし河見世の略せま
しゆあまて唐表すてしゆいさる
ゆいさるゆいさる
六百廿四の合は修成
判ありてゆいさるゆいさる未練の事ゆいさる
つゆいさるゆいさる又河佛の扱はゆいさる
ゆいさるゆいさるゆいさるゆいさるゆいさる
ゆいさるゆいさるゆいさる
唐田社事合はつてゆいさるゆいさる
ゆいさるゆいさる建久六年の事合は修成判
ありてゆいさるゆいさるゆいさるゆいさる
河を河唐表すてしゆいさるゆいさるゆいさる

予字今... 予字今... 予字今... 予字今... 予字今...
 うと... 予字今... 予字今... 予字今... 予字今...
 ね... 予字今... 予字今... 予字今... 予字今...
 わ... 予字今... 予字今... 予字今... 予字今...
 の... 予字今... 予字今... 予字今... 予字今...
 こ... 予字今... 予字今... 予字今... 予字今...
 ら... 予字今... 予字今... 予字今... 予字今...
 と... 予字今... 予字今... 予字今... 予字今...
 ら... 予字今... 予字今... 予字今... 予字今...
 一... 予字今... 予字今... 予字今... 予字今...
 一... 予字今... 予字今... 予字今... 予字今...
 一... 予字今... 予字今... 予字今... 予字今...
 一... 予字今... 予字今... 予字今... 予字今...

ゆり〜〜の年より雅好〜〜の
〜〜の年より雅好〜〜の
〜〜の年より雅好〜〜の
〜〜の年より雅好〜〜の
〜〜の年より雅好〜〜の
〜〜の年より雅好〜〜の
〜〜の年より雅好〜〜の
〜〜の年より雅好〜〜の
〜〜の年より雅好〜〜の
〜〜の年より雅好〜〜の

一八の年より雅好〜〜の
〜〜の年より雅好〜〜の
〜〜の年より雅好〜〜の
〜〜の年より雅好〜〜の
〜〜の年より雅好〜〜の
〜〜の年より雅好〜〜の
〜〜の年より雅好〜〜の
〜〜の年より雅好〜〜の
〜〜の年より雅好〜〜の
〜〜の年より雅好〜〜の

ゆり〜〜の年より雅好〜〜の
〜〜の年より雅好〜〜の
〜〜の年より雅好〜〜の
〜〜の年より雅好〜〜の
〜〜の年より雅好〜〜の
〜〜の年より雅好〜〜の
〜〜の年より雅好〜〜の
〜〜の年より雅好〜〜の
〜〜の年より雅好〜〜の
〜〜の年より雅好〜〜の

